鳥取県エキスパート教員認定制度 公開研究授業「英語コミュニケーションⅠ」学習指導案

授業者：鳥取県立鳥取西高等学校　松田 裕史

1.日　　時： 2023年（令和5年）9月13日（水） 5時間目（12:55～13:40）

2.場　　所： 鳥取県立鳥取西高等学校 1−5教室（第2校舎1階）

※研究協議会は14:50から図書館（管理棟2階）で行います。ご都合がよろしければご参加ください。

3.ク　ラ　ス： 1年5組（普通科） 41名

4.使用教材：『Heartening Ⅰ English Communication』（桐原書店）

5.本課の名称： LESSON 6　COULD WE HAVE A REAL JURASSIC PARK?

6.教材観

キーワード： dinosaur, extinction, de-extinction, endangered species, cloning

本単元では恐竜の再生を題材とする。より具体的には“We should bring dinosaurs back to life. Do you agree or disagree?”という主発問が単元を貫く問となる。教科書の英文素材だけでは豊かなアウトプット活動を展開することは難しいため，主発問を考えるのに資する英文素材を大学入試の英文，英字新聞などのオーセンティックな素材をインプット材料として適宜生徒に紹介してきた。大学入試において頻出のテーマというわけではないが，近年では大阪大学（2015年度，後期日程），国際教養大学（2016年，B 日程）などで出題されている。2年後，生徒達が受験を考えている大学でも出題されていることは，1年次から入試に対応する力を高めたいと考えている生徒達にもモチベーションなる。特に，国際教養大学では本単元でも登場する Jack Horner の主張がメインテーマとなっている（Paleontologist Jack Horner is hard at work trying to turn a chicken into a dinosaur.）。

“Jurassic Park”や “Lost World”などを見たことのある生徒が多くいるが，それらの生徒にとっては身近なトピックだと言える。一方，映画を見たことない生徒にとっては疎遠なテーマである。また，身近ではあったとしても，恐竜再生そのものは自己関連性の高いテーマだとは言えない。目的・場面・設定を工夫した発問が必要となる。

教科書本文以外に多様な素材をインプット材料として使用するが，これらは生徒の価値観や世界観を広げる契機となりうるもので，本題材を単に情報のやり取りに終わらせない鍵を握る。

新学習指導要領との関連で言えば，英語コミュニケーションⅠの「1 目 標」における（3）話すこと［やり取り］「イ 社会的な話題について，使用する語句や文，対話の展開などにおいて，多くの支援を活用すれば，聞いたり読んだりしたことを基に，基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。」に本単元の目標は基づいている。また，論理・表現Ⅰの（1）話すこと［やり取り］「イ 日常的な話題や社会的な話題について，使用する語句や文，対話の展開などにおいて，多くの支援を活用すれば，ディベートやディスカッションなどの活動を通して，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，基本的な語句や文を用いて，意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。」にも関連している。論理・表現Ⅰの時間数が少ない中，指導者は英語コミュニケーションと論理・表現のクロスオーバーを常に考えておく必要がある。

7.生徒観

1−5組は習熟度が上位の生徒が集まったクラスであり，授業者が担任をしている。英語学習に対する意欲の旺盛な生徒が多く，難関大を目指す生徒が多くいる。英検2級取得者が複数おり，準 1 級レベルに近づいている生徒も在籍する。スタンフォード大学の主催する，Stanford e-Tottori Program を受講予定の生徒や，バーモント州への研修（10月），海外への大学進学を視野に入れている生徒もいる。4月から授業でスピーキング活動を常時取り入れ，スピーキングに対する抵抗感がない。中学時代に豊富な言語活動を経験してきた成果だとも言える。ペア活動にも積極的に取り組み，チャレンジングな題材や課題にも臆することがない。ただし，アウトプット活動における accuracy と fluency を高める余地は多く残されているため，地道なトレーニング要素もなおざりにしないことも低学年指導では必要である。

8.指導観

単元を通して4技能5領域にまたがるコミュニケーション活動を行ってきた。本時においてもスピーキングを行う。リスニングやリーディングなどのインプット活動もゴールのコミュニケーション活動から逆算し，それに資するものだけを取り扱う。本時では準備された原稿を発表したりポスターをプレゼンしたりするなど準備型(Prepared)ではなく，準備型と即興型の間に位置するコミュニケーション活動を設定した。よって予定調和な活動ではなく思考の即興的な生成にも重きを置いた活動とも言える。

新学習指導要領においてテーマの一つになっている「主体的・対話的で深い学び」については『ディープ・アクティブラーニング』（勁草書房）や『深い学びを紡ぎだす: 教科と子どもの視点から』（勁草書房）に詳しい。松下佳代（2015）は深さの系譜を次の 3 つに整理している。すなわち，「深い学習」「深い理解」「深い関与」である。「深い学習」とは「単に教えられたことを暗記してはき出すだけでなく，推論や論証を行いながら意味を追求しているか」，「深い理解」とは「事実的知識や個別のスキルだけでなく，その背後にある概念や原理を理解しているか」，「深い関与」とは「いま学んでいる対象世界や学習活動に深く入り込んでいるか」という説明がなされている。

松下（2015）は特に「深い学習」と「深い理解」の 2 つが特に重要であると捉え，この 2 つをさらに体系化する手立てとしてマントルやエントウィスルを引用し，学びの深さを生み出すアプローチを紹介している。その中には①「概念を既有の知識や経験に関連づける」②「共通するパターンや根底にある原理を探す」③「証拠をチェックし，結論と関係づける」④「論理と議論を，周到かつ批判的に吟味する」⑤「必要なら暗記学習を用いる」という5つのポイントがある。本時の活動は特に，①③④⑤に関わる。

9.本課の学習課題:

（1）恐竜再生に関する会話を聞き，話し手の意見と理由を理解することができる。【リスニング：知識及び技能】

（2）恐竜再生の可能性に関する講義を読んで，要点や詳細を理解することができる。【リーディング：知識及び技能】

（3） 恐竜再生について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，多くの支援を活用すれば，聞いたり読んだりしたことを基に，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて適切に用いて，情報や考え，気持ちなどを論理的に注意して話して伝え合うことができる。また，反論や質問をすることができる。【スピーキング（やり取り）：思考・判断・表現 】

（4）恐竜再生に関する自分の意見を理由とともに述べるパラグラフを書くことができる。【ライティング：思考力，判断力，表現力等】

指導過程

第1時間　Lesson 6 Introduction, 全体読み，Part 1
第2時間　Part 1
第3時間　Part 1 Review，関連英文素材の読解
第4時間　Part 2, Real Life Information
第5時間　Part 2 Review，関連英文素材の読解
第6時間　Part 3
第7時間　Part 3 Review, 関連英文素材の読解
第8時間　Part 4，音読トレーニング，同サイド異アーギュメント
第9時間　本時
第10時間　前時の振り返り，Writing
第11時間　パフォーマンステスト
第12時間　パフォーマンステスト

教科書以外に参照した言語材料

（Web）
(https://www.discovermagazine.com/planet-earth/5-reasons-to-bring-back-extinct-animals-and-5-reasons-not-to)
(https://futureofworking.com/6-advantages-and-disadvantages-of-cloning-extinct-animals/)
(https://greengarageblog.org/7-main-pros-and-cons-of-cloning-extinct-animals)
（入試問題）
京都産業大学(2015), 国際教養大学(2015)

10.「話すこと［やり取り］」における目標及び評価規準（本時）

目標

社会的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，多くの支援を活用すれば，聞いたり読んだりしたことを基に，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて適切に用いて，情報や考え，気持ちなどを論理的に注意して話して伝え合うことができる。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・賛成・反対の意見を，論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。 ・社会的な話題について，賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合う技能を身に付けている。	自分の意見を，相手によりよく理解してもらえるように，社会的な話題について，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，相手の意見に応じて，賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。	自分の意見を，相手によりよく理解してもらえるように，社会的な話題について，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，相手の意見に応じて，賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合おうとしている。

11.使用教具・準備　授業用ワークシート，辞書，パワーポイントシート，教室パソコン，スクリーン等

12.本時の指導過程：

時間	指導過程	生徒の学習活動	指導内容 ※指導上の留意点	評価の観点 知	思	態
0 1 (3)	本時の目標の提示 学習履歴の提示	・本時の目標の確認 ・本時に到るまでの学習履歴を確認	・目標までの見通しを立てられるように留意する。	一斉に記録に残す評価は行わない。ただし，ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に活かすことは毎時間必ず行う。		
4 (4)	Pair Interaction	・"Do you want to keep a dinosaur?"という問いについて考え，Teacher Talk を聞いた後、やり取りを行う。 Teacher Talk は前時のスピーキングで生徒が英語で表現できなかった内容をできるだけ盛り込み、インプット材料とする。（英語での表現に困った内容は google form で確認済み）	・Part 1 の英文の一部をリード文とする。 ・これまでの学習内容が生かせ，本時の後半のコミュニケーション活動につながる発問とする。社会的なレベルではなく，日常的なレベルのトピックとする。			
8 (10)	・オーバーラッピング ・シャドウイング ・本文のパラフレーズ版をリーディング	・付属の音声データに合わせてオーバーラッピング，シャドウイングを行う。 ・シャドウイングは個人，ペアで行う。ペアで行った後は，互いに評価する。	・本時のアウトプット活動，ひいては1年次で到達すべき Speaking を見据え，fluency, accuracy を高める音読トレーニングを設定する。 ・パラフレーズ版は単に記憶したことを再生する作業とならないよう，使用される語彙を工夫する。例えば、4月以降に学習した表現や論理・表現Ⅰの学習内容を盛り込む。			
18 (7)	リスニング	本文の Part 4 に登場する Jack Horner のスピーチの一部をリスニング	・生徒にとって初見の素材であるが，本時のアウトプット活動に資する内容とする			
25 (7)	リーディング	・chickenosaurs について Jack Horner とは異なる視点を持つ Matthew Harris の見解が載せられている英文を読む。	・生徒にとって初見の素材であるが，本時のアウトプット活動に資する内容とする ・生徒の英語力をふまえ，徒に難解な英文とならないよう指導者がリバイズ			

			したものを使用。京都産業大学や国際教養大学の入試で出題された英文であり，元の英文は The Washington Post に掲載されている。(November 10, 2014)			
32 (12)	Free 3-Way Discussion ・"We should bring dinosaurs back to life. Do you agree or disagree?" という主発問を軸に3人のディスカッションを展開。	・3人のうち，じゃんけんで勝った生徒は立場を選ぶ。2番目に勝った生徒は賛成の立場，負けた3人目の生徒は反対の立場。 ・どちらの立場に対してより説得力のある立論ができるかを判断する。 ・クラスでシェア ・Aliza 先生や Sachrist 先生に対して代表の生徒がスピーチをする。 ・残り時間を見て 2nd Round に進むか，中間指導を拡充するかを判断 ・2nd Round	・ディスカッション用のワークシートの使い方を説明する。 ※他者の意見を聞き自分のアイデアをさらに拡充させること，2つの立場のうちどちらに対してより説得力のある立論ができるかを気づかせるねらいがある。 ・身近にいる ALT，Aliza 先生や Sachrist 先生に対して論理的な意見を述べることができるかどうかを目的・場面・状況のキーとする。			
44 (1)	振り返り	・振り返りはクラスルームに配信するフォームで入力	・回答する生徒に学びが生まれうる質問項目とする。			
後日	パフォーマンステスト			○	○	○